

「東北女性の市民化・シティゼナイゼーション：多様な若手女性は
どのようにエンパワーしているのか？」
東京大学社会科学研究所准教授、スティール若希 (Jackie F. Steele)

- 1) 市民化・シティゼナイゼーションのプロセスとは？
- 2) 参画型アクション研究とは？
- 3) 科研プロジェクト：Diverse Young Women's Leadership in Post-311 Tohoku
- 4) 若い女性のプロフィールや国内移住；Uターン、Iターン、Jターン？
- 5) 2015年のグラスルーツ・アカデミー参加者の活躍とは？
- 6) 若い女性が目指していることとは？
- 7) 教訓・要点
- 8) 本来の法・政策改善へのインプリケーションとは？

「東北女性の市民化・シティゼナイズション：多様な若手女性はどうのようにエンパワーしているのか？」

東京大学社会科学研究所准教授、スティール若希 (Jackie F. Steele)

研究課題の背景： 日本代表制民主主義の逆機能により、日本のシティズンシップ論の浸透が停滞しています。結果として、多様性の主流化も停滞。本質主義な日本人論では、健康な日本人既婚男性、正社員、子育てや介護などのケア責任のない個人が前提とされているため、「強い男性個人主義」的なシティズンシップ論、法・政策や災害文化を見直す機会としたい。そのため、社会全体にある多様な回復力・脆弱性の認識により、脆弱性を共感して減らす「民主的リスク・ガバナンス」の民主的な挑戦が起きています。若手女性の活躍、希望や地方復興に対するビジョンを紹介すると、議会の政策・裁判所判決、それらに対する若手女性の「異文化」、世代間の文化ショックが明らかになり、本来の日本のシティズンシップ論や実践を考えなおす可能性が生まれてきます。

一緒に考える内容

Q1: 日本のシティズンシップ論・戦後国民論はなぜ停滞しているのか？日本人の男性市民の解放は戦後の民主的社会で生まれてきましたでしょうか。男性を同盟者・味方にするために何が必要なのか？

Q2: 家父長（異性愛）の家族法が変わらない限り、（異性愛・同性愛）女性の解放（エンパワーメントは解放後に行うだろう。。。）は可能なのか？

Q3: 多国籍でのシティズンシップが不可能のままだと、外国籍市民人女性との一体感・共感をどうやって構築するのか？

Q4: 日本のフェミニズム論、女性運動により、民主的社会の基礎である「多様性の保障」を目指して、法政策を変えていく場合、包括的な日本の可能性とは何？